

牛肉の需給予測について

1 出荷頭数・生産量

- 生産量は、1月は交雑種の出荷頭数の増加が見込まれるものの、和牛および乳用種の減少が見込まれることから、前年同月をやや下回ると予測する。2月は、和牛の出荷頭数が前年並みと見込まれるものの、交雑種および乳用種の減少が見込まれることから、前年同月をわずかに下回ると予測する。
- 3カ月平均（12～2月）では、出荷頭数、生産量ともに前年同期をわずかに下回ると予測する。

(千頭、千トン)

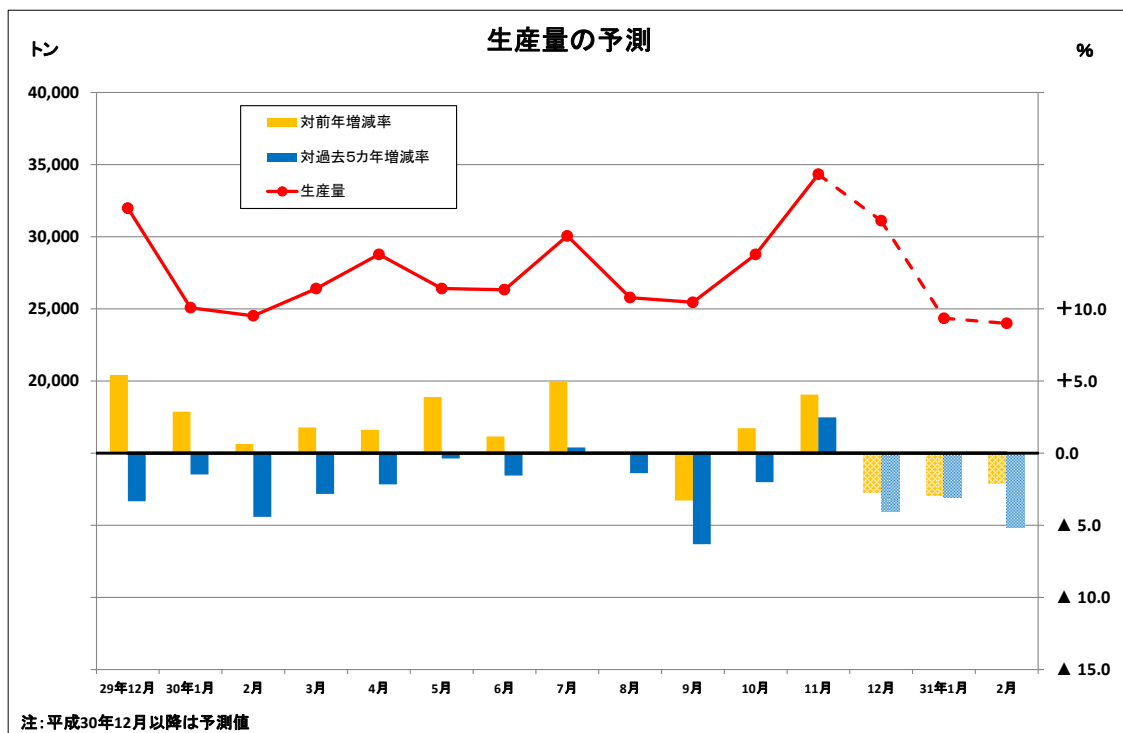
	出荷頭数	生産量
平成30年 12月(見込み)	97.3 (97.1%) [100.0%]	31.1 (97.3%)
平成31年 1月(予測)	77.5 (96.9%) [97.0%]	24.3 (97.1%)
2月(予測)	76.2 (97.8%) [97.8%]	24.0 (97.9%)
12～2月平均	83.7 (97.3%) [98.5%]	26.5 (97.4%)

注：( )は前年同期比、以下同じ。[ ]は1日当たり出荷頭数ベースの前年同期比。

(参考) 品種別の出荷頭数

(千頭)

	和牛	交雑種	乳用種
平成30年 12月(見込み)	46.0 (99.8%)	23.2 (99.1%)	26.6 (91.3%)
平成31年 1月(予測)	31.0 (97.1%)	19.3 (102.5%)	26.0 (92.4%)
2月(予測)	31.6 (100.3%)	18.5 (99.0%)	24.9 (93.5%)

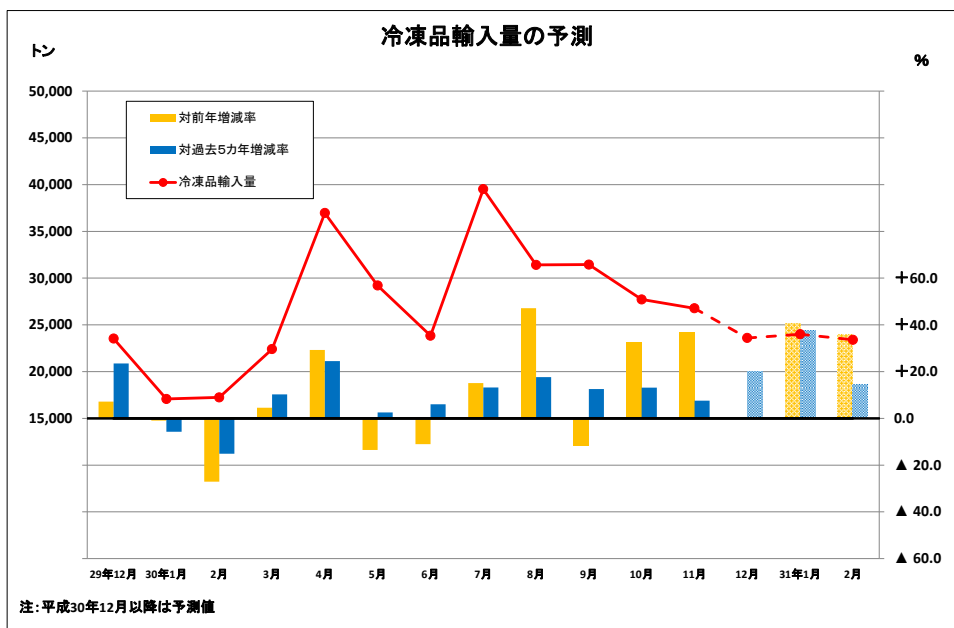
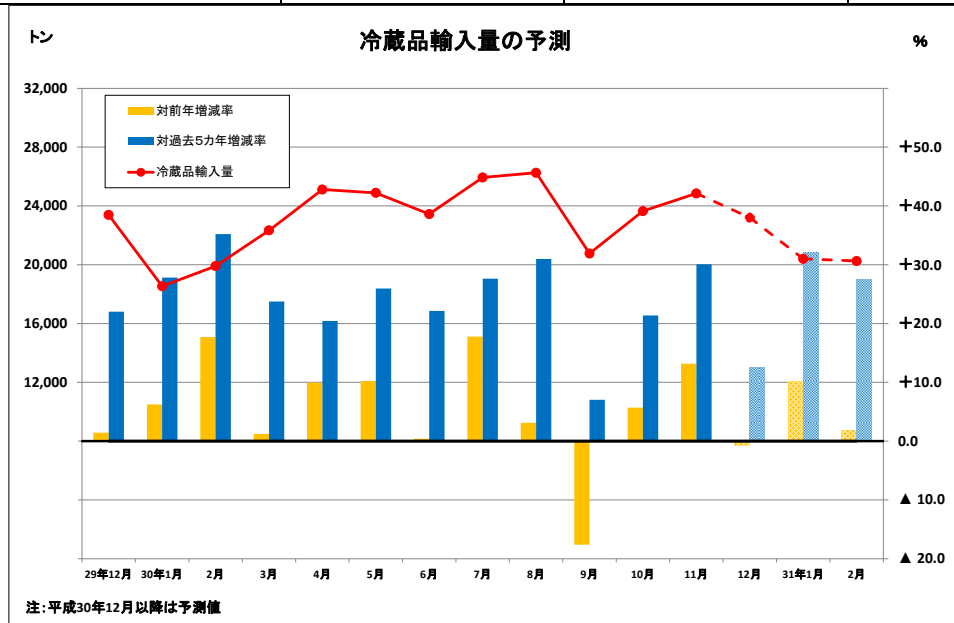


## 2 輸入量

- 冷蔵品輸入量は、前年同月に比べ豪州産の増加が見込まれることなどから、1月はかなりの程度、2月はわずかに、いずれも前年同月を上回ると予測する。なお、3カ月平均では前年同期をやや上回ると予測する。
- 冷凍品輸入量は、1月はT P P 1 1 協定発効に伴い、一部の通関繰越されたカナダ産およびニュージーランド産の増加が見込まれるほか、1月、2月ともに前年同月に比べ米国産の大幅な増加が見込まれることから、いずれも前年同月を大幅に上回ると予測する。なお、3カ月平均では前年同期を大幅に上回ると予測する。

(千トン)

		冷蔵品	冷凍品	合計
平成 30 年	12 月 (見込み)	23.2 ( 99.2%)	23.6 (100.3%)	46.8 ( 99.6%)
平成 31 年	1 月 (予測)	20.4 (110.1%)	24.0 (140.6%)	44.4 (124.6%)
	2 月 (予測)	20.3 (101.7%)	23.4 (135.7%)	43.7 (117.3%)
12~2 月平均		21.3 (103.3%)	23.7 (122.8%)	45.0 (112.5%)

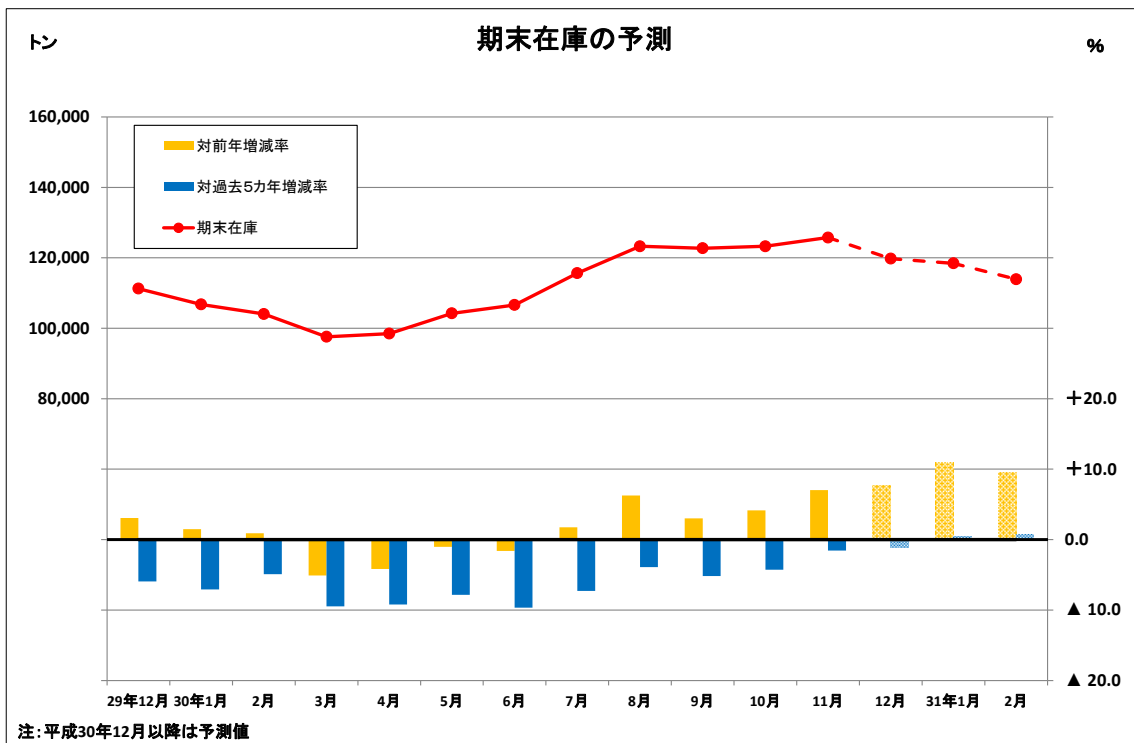
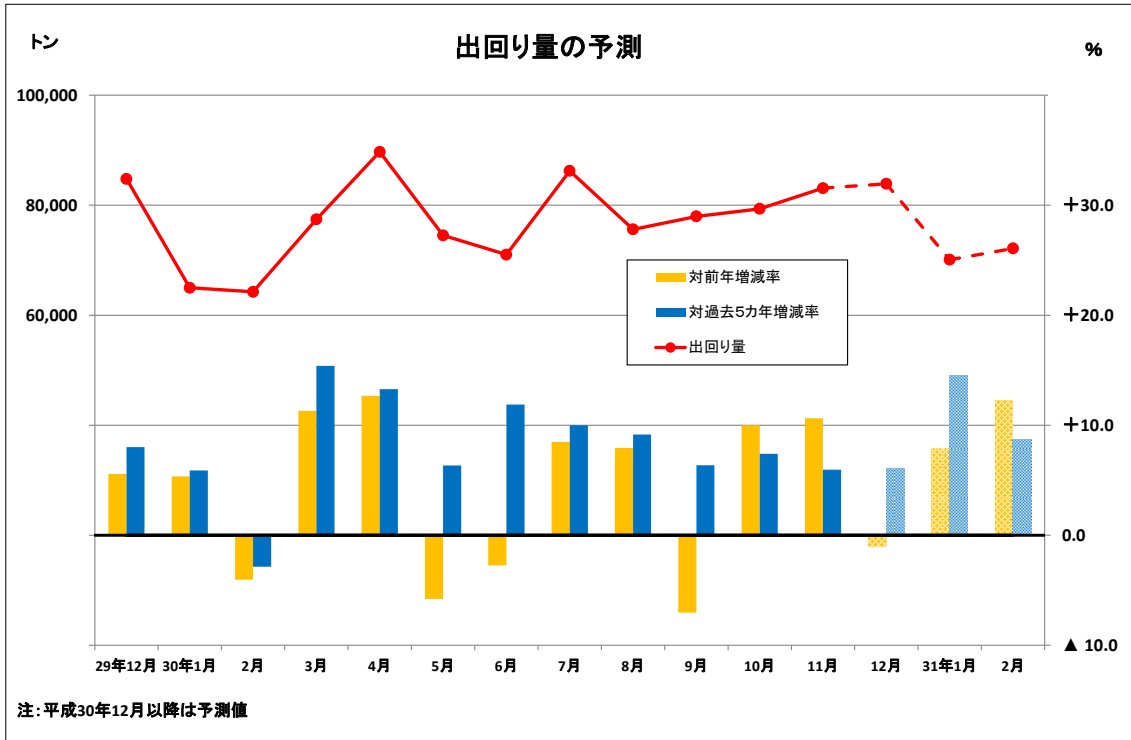


### 3 出回り量、期末在庫

- 出回り量は、過去の月別出回り量の実績をもとに推計した結果、1月はかなりの程度、2月はかなり大きく、いずれも前年同月を上回ると予測する。
- 期末在庫は、1月、2月ともに前年同月をかなりの程度上回ると予測する。

(千トン)

		出回り量	期末在庫
平成30年	12月(見込み)	83.9 (99.0%)	119.8 (107.7%)
平成31年	1月(予測)	70.1 (107.8%)	118.4 (110.9%)
	2月(予測)	72.1 (112.3%)	113.9 (109.5%)



## <予測手法>

- 出荷頭数は、黒毛和種・乳用種雄牛・交雑種については、家畜改良センターの牛個体識別情報から、「月齢別・牛の種類・性別のと畜頭数」のデータを用いて、牛の種類の出荷月齢パターンを把握し、「牛の出生年月」をもとに予測。上記以外については、過去の月別出荷頭数の実績等をもとに予測。なお、1日当たりの出荷頭数をベースに、と畜場稼働日数を加味し、月単位で算出。
- 生産量は、牛の出荷予測頭数に過去の月別枝肉重量の実績をもとに算出した平均枝肉重量を乗じて部分肉換算率を70%として算出。
- 輸入量は、機構の実施している輸入動向検討委員会における輸入数量見込み。
- 出回り量は、過去の月別出回り量の実績をもとにARIMAモデル（計量経済学に基づく手法）予測。
- 推定期末在庫は、機構の実施している食肉等保管状況調査の実績をもとに、生産量及び輸入量を加え、出回り量を控除して算出。

お問合せ先

(独) 農畜産業振興機構

畜産需給部 需給業務課

後藤、小林

TEL 03-3583-4301 FAX 03-3587-0768